

事業所名	WakuWakuあゆみ		公表日		2025年3月18日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係が適切であるか。	○		集団で使う活動室と個室を用意し、物の配置等も工夫して広く使えるようにしている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		利用人数やこどもの特性、活動内容に応じて十分な職員を配置できるようにしている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		パーティションやスケジュールボードを活用している。施設内に段差はなくバリアフリーになっている。	今後、より視覚的にわかりやすく情報伝達できるよう環境を整えていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		物の配置を変更し、より安全に過ごしやすいとした。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個室を2部屋用意し、必要に応じて使用できる。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		○		課題の検討はしているが、計画的に振り返りができていない。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		アンケートのご意見を参考により良い支援につなげられるよう努めている。	昨年度までの内容で十分に取組みしていない事もあり、順次改善していく。「わからない」というご回答は周知不足だと認識して、報告・情報の共有に努めていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎月の職員会議と年2回職員面談を実施している。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		今後、検討する。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		外部研修を案内し、受講を勧めている。隔月で内部研修を実施している。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		○		今年度中に公表する
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		活動時のこどもの様子の観察と保護者への聞き取りからニーズや課題を整理し分析している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		計画作成会議を行い、複数の職員で課題やニーズの情報を共有しながら計画を作成している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		職員会議で計画を説明・共有し、日々の活動前にも一人ひとりへの取り組みを確認している。	活動の流れの中で十分に取組みしていない事もあり、日々の活動により活かしていけるよう工夫が必要。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		○		標準化されたツールの使用等、より良いアセスメントの方法を検討する。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等サービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		今年度より様式を変更し、ニーズを保護者と確認しながら各必須項目を含んだ計画を作成している。	地域支援・地域連携の項目はあまり計画できていない事が多く、今後、事業所として個別にどのように支援していけるかを考えていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		曜日毎の担当職員がベースを作り、他の職員と相談してブラッシュアップしている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		慣れ親しんだ活動で自信を持って取り組む事と、新しい体験をして幅を広げていく事を両立できるよう組み合わせて行っている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
適切な支援の提供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		こどもの状況や課題に対して個別活動と集団活動を組み合わせ計画作成し、支援している。	マンツーマン対応をすることも以外に対して、個別活動の支援が十分でない時があるので、活動の方法をより工夫している。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		打ち合わせでタイムスケジュールや役割、個別の計画やアレルギー等の留意事項等について確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		○		個々に振り返って話す事は多いが、送迎が多く帰社時間も揃わない為、終了後の全体での打ち合わせはできていない。日誌や活動記録で情報共有している。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々、客観的な記録をとれるよう努めている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		6か月に一度以上、見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○			「地域交流の活動」や「こどもが主体的に参画できる活動」の機会をより多く持てるよう取り組んでいく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		選択する場面では、こどもの状況に応じて助言しながら自分で決められるよう見守り支援をしている。こどもによっては本人と相談しながらスケジュールを決められる機会を持っている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達支援管理責任者または最もこどもの状態を把握できている職員が会議に参加するように調整している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		必要に応じて連携している。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		各学校の状況に応じて年度初めや月初め等に連絡している。	一部でこどもの利用予定等で行き違いもあった。各学校としっかり連絡を取っていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		○		一部、相談支援事業所を通して情報共有する事はあったが、機会は多くなかった。必要に応じて情報共有していく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○		法人内の事業所に移行する場合は情報提供したが、それ以外ではできていない。必要に応じて行う。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		○		個別の案件で相談支援事業所を通して情報共有する事はあったが、それ以外で連携を必要とする機会はなかった。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		地域の中学生と一緒に収穫体験を行った。今後、より交流の機会を増やし、保護者にも周知していく。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		奈良市障がい児通所支援連絡協議会の活動に積極的に参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		支援後の引継ぎ時に話をする他、必要に応じて電話やSNSを使って伝え合っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		プログラムは実施していないが、研修等の情報を発信した。今後も家族支援等の情報を提供していく。	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		事業内容や利用者負担等について、契約時に丁寧な説明を心がけている。	
	37	放課後等デイサービス計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		事業所としての見立てをお伝えし、保護者の意向を確認しながら作成している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		丁寧に計画を説明して同意を得るように心がけている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		相談があれば送迎の際や電話・SNS等を適宜使用してやり取りし助言をした。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○		保護者交流会を実施した。	今後も交流会を実施していく。きょうだいや父親同士の交流等についても検討する。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情対応の体制を入りに口に提示している。この1年は苦情はなかった。何かあった際はすぐに保護者等と相談し対応するようにしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月「わらいふ」を発行し、HPにも掲載している。	SNSを活用する等、子どもや保護者にとってより活動等の情報を得やすい形を検討したい。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		守秘義務の遵守を職員との契約内容に含めている。子どもの写真の使用に際して、可能な方には保護者に使用同意書を頂いている。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		子どもの必要に応じて絵カードやスケジュールボードを活用している。保護者とはSNSも活用して連絡している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		法人で5年ぶりに祭を開催して地域の方に多数お越し頂いた。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		○		防犯マニュアルの整備が必要。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPを策定し、避難訓練を実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。		○		予防接種については確認していない。服薬やてんかんの状況について毎年保護者に記入頂いている。てんかん発作時に坐薬挿入が必要になる方には、事前に医師の指示書と薬の預かり依頼書を頂いている。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○		保護者に聞き取りした内容に沿って対応している。医師の指示書は頂いていないので、今後、保護者に協力を頂いて確認する。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。		○		月に一度安全点検を行う他、日々安全に配慮しているが、計画作成や研修等は行っていない。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		○		安全計画を作成していない。今後、取り組んでいく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		法人全体でヒヤリハットを共有している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		年に1回以上、虐待防止について内部研修を行っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束の必要が想定される子どもに対しては、保護者に説明し、計画に記載している。		